

令和6年度（2024年度）学校評価書

学校名 北海道函館西高等学校

学校関係者  
学校評議員  
5名

1 学校教育目標

「魅力ある人づくり」

- (1) 地域を思い、未来を創造できる人を育む
- (2) 変化に対応し、新しい価値を見いだせる人を育む
- (3) 自他を尊び、共生できる人を育む

2 スクール・ミッション

- (1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
- (2) 社会人としての基本的な資質を身に付け、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、自ら課題解決していく生徒の育成
- (3) 探究的な学習やキャリア教育を推進し、持続可能な未来社会の創り手となる生徒の育成

3 年度の重点目標

未来を創造する生徒への「i+1」

○主語は「一人一人の生徒」

- (1) 自分のよさや可能性を認識することができる生徒を育成する。
- (2) あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる生徒を育成する。
- (3) 多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り開いていくことができる生徒を育成する。

- 自己評価結果  
A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である
- 学校関係者評価  
(1) A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不適切 D：不適切  
(2) A：十分な効果を期待 B：ほぼ十分な効果を期待  
C：あまり効果が期待できない D：全く効果は期待できない

項目	重点事項	達成状況	評価及び充実・課題改善の方策	(1) 自己評価の適切さ	(2) 改善方策の適切さ
I 学習指導	(1) 不断の授業改善により、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	C	・授業評価アンケートを導入したが、授業改善に向けた取組が一人ひとりの教員に任されており、組織的に授業力を向上させる取組となっていない。教務部が年間を通じて授業改善に取り組めるように伴走支援を行う。 ・オンライン授業が全科目で実施できるようになった。また、申し合わせ事項により教職員への共通理解を深めることができた。引き続き、各教科の「できていること」「困っていること」について、校内研修等を通じて共有し、学びの保障へつなげていく。	B	B
	(2) 教科等横断的な視点から教育課程を編成し、学習の基盤となる資質・能力を育成する。	C	・令和7年度入学生の教育課程において、2・3年次の共修科目「グローバル探究」、3年次の選択科目の見直し及び選択科目数増を実現した。しかし、地歴公民及び理科の分割履修が前提となっていることなど、議論が不十分な部分もみられる。教育課程実施の検証を絶えず行い、改善が必要な部分を検討していく。 ・単元配列表を作成したが、単元配列表を意識した授業づくりに教員間の意識の差がある。教科と探究の連携についての校内研修を実施していく。	B	B
	(3) 生徒のよい点や進歩の状況等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。	B	・観点別評価が各教科において概ね適切に運用されているが、生徒への評価が生徒の後の学習活動や教員の授業改善につながっていない部分もみられる。 ・生徒が「学習したことの意義や価値を実感できるように」なる授業を提供できるように、教員同士の相互伴走支援ができるように校内研修を実施していく。	A	B
<b>学校関係者の意見</b> ・教員は、授業改善をしていかなければならないが、目指すべき授業のあり方について、協議を積極的に深めて挑戦してほしい。 ・統合後の西高の歩み、取組は内外に一定の評価を得ており、教員の不断の努力の賜である。この歩みを止めないための開かれた体制づくりの継続を望む。					
II 生徒指導	(1) お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れるような風土を醸成する。	B	寛容な生徒が多い中、一部生徒に他者を思いやれない行動がみられた。また、教員による指導・支援の年次差に課題がみられる。各年次主任打合せの実施により、年次間の指導の目線合わせをしていく。	A	B
	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、生徒の自己決定の場を広げる。	B	・ICTを効果的に活用した授業改善が進んだ。一方で、教員のICT活用スキルに個人差もみられることから、校内研修や公開授業週間の実施によりICT活用スキルの向上を図っていく。 ・まだ一斉教授型授業が行われていることもあり、受動的な生徒が多くみられる。普段の授業から主体的に行動できる生徒の育成を念頭に置いた授業改善に努める。	A	B
	(3) いじめや問題行動等の未然防止に向けた取組の充実を図るとともに、情報モラルやリテラシーなど、SNS等の良好な情報発信能力を育成する。	A	次のとおり、生徒から発信する活動ができ、今後も継続していく。 ・生徒会執行部から「いじめ見逃しゼロ」宣言を全校生徒へ発信するとともに、渡島管内絆づくりメッセージコンクールに応募し団体部門高校生の部において最優秀賞を受賞した。 ・デジタルシチズンシップ教室にて、生徒が取り組んだ探究活動の内容を起点に、周囲の生徒が課題をより自分事として捉えることができるように題材を工夫した。 【参考】いじめ認知件数18（令和5年度12件）	A	A
<b>学校関係者の意見</b> ・生徒の一部に幼さを感じざるを得ない。この問題に対し、頭が下がるほど丁寧に向き合い指導する姿を垣間見る機会を得た。 ・生徒の心身の成長がコロナステイ3年を経て明らかに遅れていると考えられる。指導する教員にかかる負担の大きさにもっと着目すべきと考える。					
III 進路指導	(1) 自己理解に基づき、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	B	進路ガイダンスやインターンシップ等を計画どおりに実施でき、生徒の視野を広げる機会を設定できた。今後も関係機関や卒業生、北海道教育委員会の事業を積極的に活用しながら、効果的な実施を検討していく。	B	B
	(2) 自らの力で在り方生き方を選択していくことができるよう、キャリア・カウンセリングの機会を確保し、質の向上を図る。	B	・取り組んできた探究活動を活かして総合型選抜に臨み、結果を出す生徒が増えた。一方で、総合型選抜を希望しながら、これまでの活動実績が乏しく苦戦をする生徒も存在する。3年次の取組を学校全体に共有し、次の年次へ引き継ぐようにしていく。 ・保護者のキャリア観が生徒の進路選択に影響を与えていることもある。2年次までに保護者の固定的なキャリア観を、保護者面談等を通じてほぐしていく。	A	B
	(3) 講習や模試、ICT学習支援等の活用の改善・充実に努め、効果的なキャリア支援を推進する。	C	ICT学習支援の活用については、生徒の使用機会等から効果的に活用できていない。校内研修会の実施により、スタディサプリの効果的な活用法を模索していく。	B	B
<b>学校関係者の意見</b> ・生徒の希望と保護者の理想のギャップを埋めるのは大変であるが、保護者面談を充実させてほしい。 ・進路指導を通して、社会で生きる力を育成してほしい。また、学校教育活動を通して、生きる喜びと実感を得る体験を設定してほしい。					
IV 健康・安全指導	(1) 心身ともに健康で安全な生活を送るための自己管理能力を育成するとともに、組織的な教育相談体制の充実を図る。	A	・特別な教育的支援を要する生徒が増えてきている中、厚生部が中心となって教育相談体制や支援体制の充実を図ることができた。 ・今後も特別な教育的支援を要する生徒が増加することが考えられることから、更なる校内研修を実施していく。	A	B
	(2) 事件や事故、災害等から身を守る安全な行動を身に付けさせ、危機管理意識を育成する。	A	・前年度の評価や反省を活かした「防災避難訓練」「一日防災学校」を実施できた。地域との連携、多くの専門家の協力や参画を得て、生徒の探究的な活動にもつながった。 ・自分事として問題を捉えられる工夫をした各種講話や教室を実施できた。	A	B
	(3) 日常の清掃やボランティア活動を通じて、学校や地域の美化や環境保全の意識を養う。	B	校務分掌の厚生部を新設し、全校生徒に対して美化や環境保全について啓発を行った。しかし、一部生徒の美化意識のない行為への対応もみられた。生徒会保健委員会から発信する活動を検討していく。	B	B
<b>学校関係者の意見</b> 不登校生徒が将来的に引きこもりになり、経済的に厳しくなる人が増えていくのは避けたい。オンライン授業を受ける機会が与えられ、実際に受けている生徒がいることは、以前からみれば相当喜ばしい。					

